



中部有明地域の拠点都市としてのまちづくりを



自由民主党議員団
入江 裕二郎 議員

9月10日 一問一答方式により質問

- 1 中部有明地域拠点都市としてのまちづくりについて
- 2 商業振興対策について (1) 商店街組織力強化 (2) 空き店舗対策 (3) 新総合体育館の建設
- 3 産業振興対策について (1) 有明海沿岸道路の4車線化 (2) 産学官連携の推進
- 4 子育て環境の向上について
- 5 都市計画マスタープランについて (1) 用途地域の見直し (2) 密集市街地の環境改善
- 6 都市防災について

中部有明地域拠点都市としてのまちづくりについて

問 拠点都市として周辺都市と連携し、どのような施策を進めているのか。また各施策の総合的な評価について聞きたい。

答 周辺3市2町とで有明圏域定住自立圏を形成し、圏域内の図書館の相互利用や高齢者等徘徊SOSネットワークの構築、結婚サポートセンターの共同運営、職員研修などの取り組みにおいて成果が得られている。

商業振興対策について

商店街組織力強化

問 顧客ニーズに合わせ地域に密着した商店街づくりを基本とし、上記の強化を図るとあるが、どのような取り組みを行ったのか。

答 商店街組織等によるイベント等の開催、出張商店街などへの支援を行い、国・県等の補助制度の活用や活性化策の検討について指導、助言を行い強化を図ってきた。

し、速度低下や渋滞が発生している。交通量増加を考えると、有明海沿岸道路を早急に4車線化にすることが必要だと思うが、見解は。

答 有明海沿岸道路は平成20年3月から順次開通しており、現在の1日当たりの最大交通量は健老IC(インターチェンジ)から大牟田北IC間で開通当初の2倍以上となる約2万台に達している。現在の通行量は2車線での設計基準交通量を大きく上回り、より安全性、走行性を高めるために4車線化の必要性は高まっている。

現在、工事中の大牟田北ICから黒崎ICの4車線化は、9月中に供用を開始すると聞いている。

引き続き国や県に対し4車線化の早期実現を強く要望していく。



有明海沿岸道路

住みたくなるような魅力ある大牟田市とするため、子育て支援をどのように展開していくのか。

答 26年度に策定を予定している子ども・子育て支援事業計画を基本としながら、地域のニーズを踏まえた子育て支援を着実に進めていくこととしており、引き続き子育て世帯がより生活しやすい、住みやすい環境づくりに取り組む。

都市計画マスタープランについて

用途地域の見直し

問 本市商業地域は中心市街地等に集積しているが、郊外の沿道サービス型店舗や大型店の進出等により、空洞化が進展している。本来の商業的な土地利用がなされていない地域は、用途地域の見直しを検討すべきではないか。

答 都市計画マスタープランとの整合性を図り、都市計画の継続性や安定性、また私権制限を課す都市計画の性格を踏まえ、不適格建築物の発生など、地域への影響を考慮し、慎重に検討する必要がある。

産業振興対策について

有明海沿岸道路の4車線化

問 三池港は釜山航路に続いて中国上海航路が開設され、有明海沿岸道路を利用する車両が年々増加

子育て環境の向上について

問 市民の一番の希望は働く場があるということだが、若者が家庭を持ち、住みつくようにするには、子育て・教育内容・学校施設等の充実が必要だと考える。若い人が

都市防災について

問 小中学校再編による避難場所減少に対してどう考えているか。

答 地域防災計画で、必要に応じ代替施設の設置を盛り込んでいる。